国際複占競争下における自由貿易協定の最適な原産地規則とその適合費用*

溝口佳宏　　神事直人
帝京大学経済学部　　京都大学経済学研究科

2014 年 4 月 21 日

概 要

本稿では，自由貿易協定における原産地規則に適合費用がかかる場合の最適な原産地規則の選択について，国際複占競争の 3 国モデルを用いて分析を行う．自由貿易協定の域内と域外に 1 社ずつ立地する企業が域内国市場でクールノー競争を行い，原産地規則を満たして域内国市場へ非関税で供給するためにかかる適合費用が域内企業よりも域外企業のほうが高いと仮定する．このとき，2 社間で適合費用に十分な差があるときは，域内輸入国が適切な水準の域外関税を課しつつ，域内企業のみが原産地規則を満たす誘因をもつような原産地規則を課すのが域内国にとって最適な政策である．他方，2 社間で適合費用にあまり差がないときは，2 社とも原産地規則を満たさないような政策が最適になる場合がある．この結果は，域内企業も満たさないような原産地規則を設定する自由貿易地域が，域内国全体の経済厚生を引き上げるゆえに，結成される誘因があることを意味している．

キーワード：自由貿易協定；原産地規則；適合費用；寡占

JEL classification: F12; F15

*本研究は科学研究費補助金基盤研究 (B)（課題番号：23330087）から助成を受けている（神事）．本稿の作成にあたって，第 3 回国際経済・産業ゼミナールの参加者から有益なコメントをいただいた．論文中の誤りは全て筆者の責任である．